

手紙

あなたは手紙を書きますか？
普段言えないことも、手紙なら伝えられるかも

LIFESTYLE

33年間の感謝を込めて
平野純生、校長として最後の手紙
北星余市高校の33年を振り返ります P2



LIFESTYLE

北星余市での日々
宗教主任として教壇に立つ日々
キーワードは「本気」です P6



BOOK

お互いが 幸せを感じられる手紙

春が待ち遠しくて、どこかソワソワしてしまう3月。そんなふうにソワソワしちゃうくらい「待ち遠しいこと」ってありますか？この絵本に出てくるまみちゃんにとっては、お父さんとお母さんに手紙を読んでもらうことでした。しかも、一通の手紙ではなくて、宝探しみたいに次から次へと手紙を見つけながら、そこに書いてある

謎解きをしていくのです。そして全てつなげると、2人へのメッセージが浮かび上がってくるようになっていきます。読みながら、そんな手紙を受け取ったらうれしいだろうなあって、幸せな気持ちになります。手紙って、誰かをほんとに幸せにする力がありますよね。

君は、最近いつ手紙を書きましたか？僕はしばらく書いてないなあ。すごくたくさん書いていた時期もあったんですけどね……。まみちゃんみたいに、手紙を出す側も受け取る側も幸せを感じられるような、そんな手紙が書けるようになりたいものです。



きょうはなんのひ？

瀬田貞二作 / 林明子絵
福音館書店 / ¥1,320

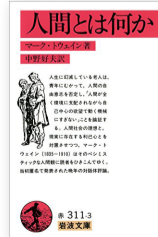
LETTER



卒業するあなたへ

僕がこの本を手にとったのは、高校生の時だったと思う。ちょっと背伸びして読んでただけけど、その時の僕にはどういうわけか、この本が頭の中にスルッと入ってきて、夢中で読んだ。自分のためだけに語りかけてくれているような、そんな親密な感じさえたの。わかりやすくないし、小難しい内容なんだけど、書いてあることが全部わかっちゃった。難しいことって、若いから理解できないんじゃないんだ。実際に、今この本を読もうとしても、とても難しく読めそうにない。あの時はスルスルわかったのね。年齢や知識や学力は関係なく、一瞬で理解できることがあるんだ。

僕が言いたいことは、自分がわかっていることから始めるってこと。わかっていないことをわかったふりして前に進んでいくと、いつの間にか、わかっていないことすら忘れてしまうんだ。そうすると自分を見失ってしまう。それはとても危険なこと。これからも君らしくね！



人間とは何か

マーク・トウェイン著
中野好夫訳
岩波書店 / ¥660

BOOK

未来に託した手紙

1964年にアメリカ合衆国で公民権法が成立しました。人種による隔離と差別を撤廃する法律です。今から58年前までは、肌の色が違うだけで入ってはいけない映画館やレストランや

ホテルがあったんだ。そんな不平等に対して、暴力を恐れずに平和的な方法で闘ったのがキング牧師です。「私には夢がある」という有名な演説を知っているかな？彼は暗殺されてしまったけれど、彼の言葉は今も世界中の人の心に残って生きています。

小さなひとりの大きなゆめ マーティン・ルーサー・キング・ジュニア

マリア・イサベル・サンチェス・ベガラ文
マイ・リー・デグナン絵 / 原田勝訳
ほるぷ出版 / ¥1,980



BOOK

悪魔も手紙を書きたい

誰かの手紙を読むのって、どこか罪悪感を感じますよね。読んでいいんだろうかって気が引ける。でもご安心ください。これは、人間

を悪に染めるために奮闘している新米の悪魔と、新米悪魔にアドバイスをする先輩悪魔の往復書簡で、気兼ねなく読むことができます。「ははーん、そういう方法を使うのかあ」とか「なるほど、そうすればいいのか」とか、悪魔の巧妙な手口がわかるからおもしろい。秘密のことを垣間見するようなスリルがあります。



C.S.ルイス宗教著作集1

悪魔の手紙

C.S.ルイス / 森安綾・蜂谷昭雄訳
新教出版社 / ¥2,420





LIFESTYLE

あの時の自分でおれてるか

文 西田テオ / 写真 辻田美穂子

手 紙は書いたことももらったこともそんな無い。でも、卒アルとか手紙、担任の涼子からもらった最後のまんじ（クラス通信）に書いてあるメッセージを、卒業して1年経とうとしている今でもたまに見る。その時に思うのは「北星おった時はめっちゃ楽しかったな」とか「戻りたいな」とかもあるけど、「今もこの時のおれでいれてるのかな」とか「みんなも変わってなかったらええな」ってこと。たぶんそんなには変わってない。てか変われへんと思ってる(笑)。けど、どこか変わったような気もする。

北星おった時はもっと周り見えてたなとか、もっと開けてたなとかは思う。当時のおれやったらこうしてたなって思うこともたまにある。例えばこの前、周りの子が、その場におらん子の陰口を言うてたんやけど、その子の行動じゃなくてその子自体を悪う言うてた。行動に対してならまだしも、その子自体を悪く言うてるのはおれは

嫌やから、「おれはそう感じひんけどな」ぐらいにその時は言うた。けど北星の人間関係の中やったら、おれはそれでは収まってないはずや。その場で自分の気持ちとか考えを伝えようとしてたはずや。まあ北星に3年間おった子でそんなことする子はおらんけどな。なんでそうしてもたんやろって考えたら、「まあこんなもんなかな」って謎の諦めがあったな。北星では諦めなかったなって思ったら、ちょっと変わってもたんかかって思ったりもする。

やっぱり周りの環境はでかい。しょうみ北星おった時のおれらは最強やった。みんな性格良ぎるし、正直やし、真っ直ぐな子が多かった。あんなええ集団はなかなかないし、これからはなかなか見つからへんと思ってる。でもそれで終わるんももったいなくない？北星で学んだことやできるようになったこと、身についた考え方を、おれらが今おる環境に落とし込んで、今おる周りの人たちと成長していくんが大事なんちゃう？おれにとっての手紙やメッセージ、それは北星のことを再確認してもう1回エンジンをかけてくれるものやな。



西田テオ | Teo Nishida

京都の大学1回生。賑やかな下宿に3年間おったのもあって、1人暮らし始めてから寂しくて独り言がばり増えた。ましてもともと声がかいてよう言われるしフランス語もたまに出る。たぶんお隣さんには2人以上おると思われとる。



LIFESTYLE

33年間の感謝を込めて

文 平野純生 / 写真 辻田美穂子

星 しんぶんを読んでいただいている方々へ、校長としての最後の手紙を書かせていただくことになりました。私、平野純生は、2021年度末をもちまして北星余市高校を退職させていただくことになりました。家庭の事情で7月から札幌に転居して家族で生活していることもあり、また来年には60歳になることもあり、区切りをつけたいと思いました。後任の校長は、若くて元気な今堀浩先生が担ってくれますので安心しております。

北星余市高校に勤務した33年間にはいろいろなことがありました。振り返るとたくさんの楽しい思い出がありました。そうした中で、私が北星余市高校のとても良いところとして自慢したいことがいくつかあります。

そのひとつは、北星余市高校では教員と生徒たちがともに努力する中で、みんなが心地よく生活できる学校をつくってきたということ。北星余市高校には、歴史的にはいろんなタイプの生徒が入学してくれ

校長の平野です。大変お世話になりました。



ました。今は圧倒的に不登校を経験した生徒が多くなり、学校自体が静かになりましたが、少し前は事件も結構起こりました。私が担任をしていたクラスでも、そんなときに担任を助けて頑張ってくれる生徒たちがいて、いろいろなことに取り組み、事件を起こしてしまった生徒も含めて良いクラスを目指し、担任と生徒が力を合わせていました。懐かしい思い出です。

ふたつ目は、本当に優しい生徒が多いということです。特に最近の生徒は優しいと感じます。私が顧問をしている落語研究会の生徒たちも、私が忙しくて参加できなくても自主的に活動し、顧問のことを気遣ってくれます。先日、大喜利を見せてもらいましたが、面白い答えがどんどん飛び出してきて、本当に笑いました。生徒たちが本当に成長していると感じました。

こんな楽しい高校なので、これからも多くの生徒が入学してくれるといいなあと、心から思います。もし皆さんのお近くに高校進学を考えている方がおられましたら、北星余市高校のことを教えていただけるとありがたいかぎりです。本当にお世話になりました。

平野純生 | Sumio Hirano

1989年4月から北星余市高校に勤務、2017年4月から校長職。2021年度末で、33年間勤務した北星余市高校を退職。退職後は家族とともに札幌で静かに余生を送る予定。学校に何かあればいつでも協力するよ。

LIFESTYLE

毎年手紙を書いています

文 勝山恵一

私 は1年に1回、必ずある恩師に向けて手紙を書きます。18歳の頃から毎年書いています。その恩師は、私の人生を大きく変えてくれた人です。恩師に向けて、毎年、その人に伝えたいことを手紙にしています。

16歳の時、私は学校生活でのトラブルで高校を中退しました。高校球児として頑張っていたのですが、中退後は、未来への希望を無くし、ただボーっと過ごす日々が続きました。そんな時、当時付き合っていた彼女が働いていた飲食店に、ふらっとごはんを食べにいきました。そのお店の大将から「お前、毎日フラフラしてるらしいな〜。暇なら面倒見たるから明日から働かんか？」と声を掛けられました。飲食店で働いた経験はなかったのですが、大将の人柄やお店の雰囲気が気に入って、勢いで「明日から働かせてください」とお願いし、働かせてもらうことが決まりました。その日から、大将は経験も知識もない生意気な自分を受け入れて面倒を見てくれ、大将には本当にたくさんのことを教えていただきました。

働き始めて数年経った頃、ある出来事が起こりました。その夜店が終わると、大将はいつも通り「また明日な！」と元気に声を掛けてくださいました。疲れていても、そんな大将の言葉のおかげで「明日も頑張るで〜」と思うことができました。しかしその日、別れた直後に大将は亡くなりました。くも膜下出血でした。話を聞いた時、全く信じることができませんでした。突然の出来事だったため、お葬式はご親族だけで行われることになり、私は最後のお別れをすることができませんでした。大将に伝えたいこと、恩返ししたいことがたくさんあるのに、どうすることもできず、ただ呆然としていました。知らせを聞いた夜、私は大将の親戚に「大将に想いを伝えたい、大将のお墓に手紙を添えたい」と電話をしました。文字を書くのは苦手だし、漢字も全然書けない自分でした。でも、とにかく涙を流しながら、ただひたすらに大将へ感謝の想いを書き続けたことを今も覚えています。大将に自分の想いが届いたかどうかはわかりません。でも、あの時書いてよかったと心から思っています。

あれから毎年、天国にいる大将に向けて手紙を書いています。手紙を書いていると、当時の感情や感謝がふつふつと湧き上がってきます。手紙を書く行為を通して、大将を始めとした、たくさんの方々を支えられて、今の自分がいると改めて気づくことができます。大切な人へ手紙を書くのは恥ずかしいし、面倒くさいかもしれませんが、手紙を書くことは、自分自身を振り返り、周りへの感謝の心や忘れていた感情などに気がつくことができると私は思っています。ぜひ、大切な人に向けて手紙を書いてみてください。できれば、その人に手紙が届くうちに、書いてみてください。



勝山恵一 | Keiichi Katsuyama

1995年京都出身。HASSYADAI.socialを立ち上げ、全国の高校でキャリア教育プログラムを実施。そのほか、少年院、児童養護施設、法人向けと若者たちに自分の人生を選択するきっかけを提供。そして3姉妹の父！

手紙の本と 音楽と映画



orange

高野莓

主人公のもとに10年後の自分から一通の手紙が届きます。そこには未来に起こることが書かれていて、転校してくる翔を好きになることや、彼が1年後に死んでしまうことが書かれていました。翔を救うため、自分の運命を変えるため、未来を変える物語です。(田中梨捺)



硫黄島からの手紙

クリント・イーストウッド (監督)

硫黄島の戦いを日米双方の視点で描いた日本軍視点の作品(米軍側は「父親たちの星条旗」)。生き抜こうとする兵士たちや、玉砕をやめさせる司令官たちがつづった手紙をもとに制作。戦時下でも人の尊厳を保とうとする人がいたことが戦争の非人道性を伝える。(安河内敏)



手紙

～拝啓 十五の君へ～

アンジェラ・アキ

活動休止中のアンジェラ・アキの作品。作詞・作曲・編曲は彼女自身。父は日本人で母はイタリア系アメリカ人。15歳の時に自分宛てに書いた手紙が30歳の時に母から届く。15歳の「僕」の悩みを、未来の自分に宛てて「手紙」を書くことで今を生きていく。(紺野良子)



ナミヤ雑貨店の奇蹟

廣木隆一(監督) / 東野圭吾(原作)

ある日3人の少年が強盗をして空き家に逃げ込んだ。かつて雑貨店だったその空き家では悩み相談をしていた。身を隠しているとシャッターの隙間から手紙が届き、試しに返事を書いてみることにした。それによって昔と今がつながっていく不思議なストーリー。(2A 林奎吾)



極アウトプット

「伝える力」で人生が決まる

樺沢紫苑

知識は、書き・話し・実用することで効率的に覚えらる。だから勉強は、それらを重視して行うべき……と論じるのがこの本。本屋やネットには数多くの勉強法が紹介されていて、学生にも教師にも大変価値のある手紙だと思う。だがなぜか誰も受け取らない。(1B 高橋奏人)



こころ

夏目漱石

主人公のもとに届いた一通の手紙を読むことでストーリーが進んでいく。高校の授業で初めて読み、続きが気になって文庫を買った思い出の作品。教科書で抜粋されている箇所以外にも登場人物の本心が伝わってくる箇所があるので、ぜひ読んでみてほしい1冊です。(藤渡優)



君の嘘と、やさしい死神

青谷真未

幼少期のトラウマから「嫌だ」と言えない少年・百瀬太郎が、余命少ない少女・美園玲に巻き込まれ変わっていく。図書館で借りて読み、何度も読みたくて買ったほど大好きな本。玲が太郎に書いた手紙の3枚目が印象的。私はその言葉を言えるうちに言いたい。(3B 眞鍋彩桜衣)



Free!

おおじこうじ(原案)

友達の薦めで見てみました。水泳を通して青春や絆を知っていく物語。このアニメが描くキラキラした青春が大好きです。「手紙」が題材の『ヴァイオレット・エヴァーガーデン』と同じ京都アニメーション制作です。ぜひご覧ください。(1A 石上瀬奈)



イル・ポスティーノ

マイケル・ラドフォード(監督)

イタリアの小さな島に引っ越してきた有名な詩人と、彼宛てに来るファンレターを届けるその島の郵便配達員との友情。詩人を演じているのは『ニュー・シネマ・パラダイス』の老映画技師の人。あの映画が好きならぜひ。(谷口学)



案山子

さだまさし

「元気であるか / 街には慣れたか / 友達できたか」で始まる歌。遠く離れた街へ行った弟に向けた兄の手紙。小学生の頃、よく流れていました。大人になって改めて聞いた時に、この問いかけの順番に兄の弟への愛情と心配を感じることができました。(今堀浩)



テガミバチ

浅田弘幸

異世界アンバグランドを舞台に、郵便配達員の少年ラグ・シーイングが相棒の半人半獣の少女ニッチとともに、行方不明の母親と自分の恩人ゴーシュを探す物語です。アニメも漫画もあるのでぜひ見てみてください！(小杉遼河)



トッポ

ロッテ

トッポの裏面にメッセージを書けます。メッセージに込める気持ち、メモのような手紙のような。その人の字から気持ちも伝わります。その一言が力になることも。短い文章でいつもの5倍うれしいトッポに。受験シーズンに発売されるトッポは友達の応援にもおすすめ。(菅野瑞希)



銀河鉄道の夜

不可思議/wonderboy

宇宙で銀河鉄道のレールをつくることになった彼と、地球に残った彼女との往復書簡のような曲。物理的な手紙のやり取りはできず、お互いをただ想っている心情が歌詞になっています。会えなくなってしまった人を思い浮かべて何度も聞いた不思議な曲です。(辻田美穂子)



ハリー・ポッターと賢者の石

クリス・コロンバス(監督) / J・K・ローリング(原作)

手紙が印象に残る映画といえば、『ハリー・ポッターと賢者の石』。主人公のハリー宛てに、ホグワーツ魔法魔術学校から入学許可の手紙が届くシーンは何度観ても胸が高鳴ります。ハリーの人生を大きく変えた手紙、幼い頃とても憧れました。(石川ちひろ)



三島由紀夫レター教室

三島由紀夫

登場人物5人の手紙だけで進行していく物語。相談したり、騙したり、告白したり、陰謀を打ち明けたり、結婚を申し込んだり。直接会話するシーンはひとつもないのに、5人が絡んでいく展開に目が離せません。自分にもそんな手紙を書く機会があったら参考にしたい。(高野知子)





EVENT

眩しかった、 最初で最後のセンターコート

戸井孝紀（3年A組）

「楽しい、楽しい！」試合中、常にこの言葉が頭の中に浮かんでいた。1、2年の時はいつも1日目で負けてしまい、2日目は試合ができなくて悔しい思いをし続けてきた。だから決勝のセンターコートに立ちたい、優勝したいという気持ちは誰よりも強く、だからこそ誰よりも練習してきた。そうして迎えた3年生、最後の試合は楽しい時間だった。自分たちの練習の成果や、チームメイトと一緒に頑張ろうという雰囲気を感じるたびに、勝ちたいという強い思いを持っているのは自分だけじゃないんだと、うれしい気持ちでいっぱいだった。そして迎えた最初で最後のセンターコートでの決勝。初めて立ったコートは眩しくて、多くの人が応援してくれていた。試合は、互いに強いスパイクやサーブを決めたりというプレーが多く、緊張もしたがあっという間の時間だった。試合の最後の1点が決まった時は、ただうれしくてしかたがなかった。最初は1人だったけど、だんだんと一緒に練習してくれる人や応援してくれる人、そして勝ったことを一緒に喜べる人が増えた。それはとてもありがたいことだと思う。3年間の高校生活の中でわずかな時間だけど、この熱や思い、コートの眩しさ、そしてみんなで頑張ったことは忘れられないと思った最後のスポ大でした。



LETTER



手紙

～拝啓、三十五の君へ～

文・写真 山崎萌果

拝啓、この手紙を読んでいるあなたは
どこで何をしているのだろう
二十五の私には誰にも話せない悩みの種があるのです

社会に出て3年
数ヶ月後にテストがあって、数年後には卒業するから
そのうち就職活動をして……
そうやってある種ルールが引かれていた学生の頃は
いくぶん描きやすかった自分自身の数年後の未来が
社会人になると一気に描きづらくなった

住む場所も、働く先も、自分で選ぶことができる
自分次第でどうにでも生きられる
そんな自由を手に入れた解放感を感じる一方で
先の見えない真暗な道を
ほんの少しだけ先を照らしてくれない街灯とともに
歩いているような気分になる

住み慣れた関西を離れ
就職を機に島根に移住してもうすぐ3年目
「こんなふうに教育に関わりたいたいかもしれない……」
国内外の教育現場を見て回りながら
拾い集めた違和感やワクワクのカケラたちを
つなぎ合わせた先に出会った島根県益田市
「とりあえずトライしてみんちゃい！」
そう言ってもらえるこの環境で
日々いろんなことに挑戦させてもらっている

でも、挑戦すればするほど、
自分の力不足や至らなさ**に**ぶち当たる
もっとできるようになりたいことがたくさん見えてくる
「もっとこういうスキルを身につけるには？」
「一度教育の現場から離れてみるのもありなのかな？」
ここでもう少し踏ん張って経験を積むこともできるし
ちょっと環境を変えてみることもできる
今、自分の前には無限の可能性が広がっているからこそ
どの道に進もうかをすごく悩んでいる
学校を卒業して社会人になったらゴール！じゃなくて
そこからもずっと旅は続いていくんだろうと思う
生きている限りゴールなんてなくて
きっと常にもやもやぐるぐるしながらも
人はそれぞれ自分の進みたい方向を探って
歩き続けるんだろう

三十五の私はどこで何をしていますか？
たくさん迷って悩んで
でもきっと最後は直感で決めた道を進んでいる私が
「幸せだ」と感じられている未来を信じて
今と向き合って生きていこう

山崎萌果 | Moeka Yamasaki

一般社団法人豊かな暮らしラボラトリー職員（教育魅力化コーディネーター/社会教育士）。大阪出身の25歳。小さい頃から教員に憧れ、大学では教育を学ぶため1年間フィンランドに留学。就職を機に島根県に移住し、主に探究の授業づくりや、社会教育プログラムの企画運営などに携わっている。特技はしゃっくりが1回で止まること。

LIFESTYLE



北星余市での日々

文 塩見耕一 / 写真 辻田美穂子

多くの高齢者の前で礼拝を行っていた私が、高校で宗教主任として若者たちの前に立つこととなったのは今から25年前のことでした。平和や差別などの社会運動と関わり、基本的に自ら求めてやってきた人々の前で牧師として語ることで、「キリスト教なんか何の役に立つん、面倒くさいだけじゃん」「洗脳されるんじゃ」という高校生に語ることは大違いです。見かけは様々な子どもたちがいました。自分が経験してきたようなそこの学校なら目立つような子どもがたくさんいました。中退や不登校経験は珍しくなく、やんちゃそうな子も、大人しすぎる子もごちゃごちゃにいる集団でした。

最初は戸惑ったというよりも、何をどうしたらよいのかもわからないまま、毎

日起きるトラブルに振り回される日々でした。しかし、大変だと思いつつ同時に「今日は何が起きるのだろう」とワクワクしながら学校に行く自分がいることに気づいたのです。周囲からは「あの学校は大変でしょう」と言われますが、時間的、物理的には確かに大変なのかもしれないけれど、それとは別の何かがあることに気づいたのでした。それが何かを理解するには長い時間がかかりましたが、キーワードを見つけた気がします。それは、「本気」です。

「本気」。中退や不登校を経験する中で、自分の人生を半分投げ出したような感覚でいる子や、教師や大人不信にとられ将来に希望を持っていない子、人と比べて何も優れたものがないと思ひ自己肯定感を持っていない子。だから1年生で入学し

塩見耕一 | Koichi Shiomi

1957年北海道生まれ。10歳で九州の宮崎へ転居し京都の大学へ進学。牧師として四国の松山で3年、さらに教科の牧師として広島で10年を過ごす。40歳の時に北星学園余市高校の宗教主任として赴任する。4回の担任を経験する。

たときはぐちゃぐちゃです。でも、この学校や下宿で生活する中で、夢や希望を抱き、本気で実現に向けて全力で取り組んでいる先輩たちの姿を見たとき、「本気で頑張ることがこんなにかっこいいのか」「こういうことを頑張ればいいんだ」と気づいて変わり始めるのです。本当にかっこいいです。みるみる成長していきます。そばで見ながら私自身多くのエネルギーをもらいました。未熟ながらも「人間としての器がでかい」と感じる子が何人もいました。この学校は私の人生にとっても宝物でした。ありがとう！



辻田美穂子 | Mihoko Tsujita

大阪から移住した写真家。北星余市でのたくさんの出会いを通して人生が変わったひとりです。今年の春に余市からせななに引っ越しして子育てしながら、時々赤ちゃんを背負って撮影に出かけています。

COLUMN

今回の表紙は落語研究会、通称「落研」のメンバーと顧問の平野校長先生です。今回は撮影中の雰囲気づくりについて書いてみたいと思います。

いかついカメラを前にすると大抵の人は緊張します。でもそれは当たり前。最初から自然ですてきな笑顔になれば、それはもうプロです。緊張をほぐすためのひとつの方法として、周りの方に話し相手になってもらうということがあります。だけども話せばなしだと口元の表情から明らかに会話をしているのがわかってしまうと、話すことに集中しすぎると、本来の目的を忘れて真剣に話し込んでしまう人も……。そういうときはまたこちらから声をかけながら、表情が柔らかくなるタイミングを見計らい、自然に笑う瞬間を狙います。しかし、さすがの噺家たち。この日はこちらからお願いせずとも、最初から話せばなし！

今回は人数の関係で2グループに分かれ、最終的にどちらを採用するかは、この星しんぶんをつくっているデザイナーさんに決めてもらうことにしました。どちらかしか採用されないということで、ますます士気が上がります。「大喜利してい

る設定は？」「この小道具使えるかな？」など、1組目はポーズの提案がどんどん出ます。後ろで見ている別グループからのツッコミも止まりません。撮影はカメラマンと被写体、二者間だけのセッションではありません。その場の雰囲気がいいと、みんなの気持ちに一体感が出るのか、すんなり最高の1枚が撮れたりするのです。一方、2組目はそんな様子を見て考えすぎてしまったのか、お題がなかなか決まらず苦戦。そこで「喜怒哀楽を表現してみてください」と提案してみたものの、「哀」を担当することになったYくんはいつもニコニコしているので、悲しそうな表現をしてもなぜか笑顔が見えます。そんな状況がおかしくて、周りが笑うと本人もつられてもっと笑顔に……。 「喜」と「楽」のふたりは、お互い区別をつけるのが難しかったようですが、周りの愛ある野次のおかげで安定感のある表情がつくれていました。 さてさて、そんな紆余曲折を経て表紙に選ばれたのは果たして?!

カメラマン美穂子
表紙写真の
「おもしろ」



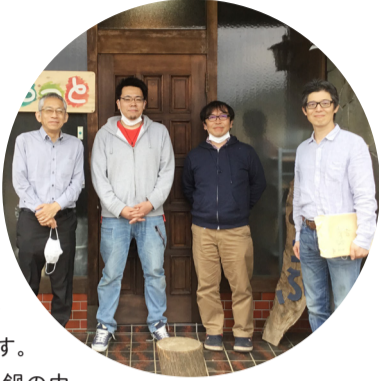


REPORT

純生が行ってきた!



ゆどうふ 東京都町田市



東京八王子から横浜に抜ける国道16号。そこからちょっと奥に入ったところに古い一軒家を使った若者支援のNPO法人があります。「ぼかぼかあたたかい鍋の中で、関わる人みんなのそれぞれの個性が発揮されるような場でありたい」と、代表の辻岡秀夫さん。それぞれの味や個性を大切に考えているのでしょう。玄関先の小さな花壇や畑で植物を育てたり、居間にある大きなホワイトボードにはクイズや予定が書き込まれていたり。音楽による表現も大切にしている、地域のイベントにもグループで参加するなど、積極的に地域や外部とのつながりもつくっています。訪問した時に感じたのは、「夏休みや冬休みごとに訪ねる親戚のおじさんの家」みたいな雰囲気です。いとこが集まって近況や今の気持ちをとりとめもなく話せる感じとでも言いましょうか。

ふおーらいふ 兵庫県神戸市



神戸と淡路島をつなぐ明石海峡大橋のたもとにある小さなNPO法人。学習支援・体験活動を中心とした子ども主体のフリースクールで、小・中・高校生向けの学習活動や放課後クラブだけでなく、親の会を通して家族を支える活動も行っています。高校ステーションでは、高卒認定試験のための勉強もサポート。訪問した時に、「髪を染めたり個性的な服装をしていることを心配している母親に対し、『それでいいよ』『おしゃれでしょ』と声を掛けた」というお話をうかがい、子どもの成長を感じつつも不安や心配を抱える親の気持ちをきちんと受け止め、そこも含めた支援を展開されていると感じました。代表の中林和子さんは元教員ということで、「生きる力をつけることが教育」という視点で、本校を応援してくださっています。

転入試験のお知らせ

本校では、2年生、3年生からの入学も受け付けています。「通学している学校で留年しそう」「通信制に通っているけど、全日制で行事などを楽しみたい」「寮に入って親元を離れた環境で自立したい」など、理由はさまざまです。3月22日までに願書を提出し、3月28日までに受験を終えることができれば、4月から一緒に学べます。4月以降であれば、年度途中の転入についても随時受け付けをしています。年齢や経歴、出身地もさまざまな環境で始める高校生活。そんな挑戦を応援します。入学に関する詳細はHPにも掲載しています。疑問や質問、不安など、お電話でのご相談もお気軽にどうぞ。

QUIZ

ほりさんに きいてみよう



Q どんなときに手紙を書きますか？

A 手紙を書くことは本当に少なくなりました。中学や高校の時には、引っ越していった友達に近況を伝える手紙を書いたりしましたが、まあ電話の方が気楽なのでそちらをよく使っていました。それでも手紙でのやり取りはそれなりの頻度でありました。携帯電話が存在しなかった時代ですから、「いつでもどこでも気軽に電話」という環境ではありません。ですから、「ちょっと1週間ほど旅行に」となると、しばらく連絡が取れなくなるということが発生します。そんな時に「これ読んでね」なんて手渡された手紙は、

今でも心に残っています。

手紙を書くということは、その作業に集中しなければなりません。相手のことだけを考える時間をつくって文字をしたためていくわけです。一手間かけて手書きで書かれた手紙は、それだけで貴重な存在になるように感じます。

ここ20年くらい、携帯やPCを使い、仕事でもプライベートでも気軽に要件を送っている自分がいます。仕事には欠かせないツールであることは間違いありません。それでもメモ代わりにちょこちょこっと打ち込んで送ることもあり、その多くは一読してポイしてもらって構わない程度のもです。

手紙を書くときには、相手を思ってペンを持ちます。受け取る手紙も送る手紙も、そういう時間をくぐって手元に届きます。文字にはその人の癖があり、それがまた相手の顔を思い浮かべる助けになっているからかもしれません、そこには人間くささを感じます。そんなわけで、手紙って少し大切に読んでほしいときに書くことが多くなっています。今は、受験検討者やその保護者から受けた相談へのお返事や、関わりのある団体さんへのお礼などを送るときに書くようにしています。余談ですが、少し前から万年筆を使って書くことが多くなりました。字は下手なのですが、ちょっと文字を大切にしたいと考え始めたのがきっかけです。

REPORT



工場見学で学んだこと

勝山集人 (1年B組)

昨年12月、教育サポートをしていただいているHASSYADAIの勝山さんの協力の下、札幌にあるリサイクル業者「鈴木商会」の工場見学をしてきました。石狩に



ある鈴木商会のリサイクル工場に着くと、まず工場の仕事内容や見学の流れを説明していただきました。そこでSDGsについての説明も少ししてもらいましたが、最初は「授業で聞いたことあるなあ」程度でした。

見学が始まり家電の解体を見ました。そこではエアコンや冷蔵庫に入っている銅線だけを抜き、売るために袋に詰めていました。その様子を見て、SDGsの17ある持続可能な開発目標のうち、「つくる責任・つかう責任」に当てはまるとわ

かりました。このリサイクルは車の解体現場などでも使われていました。車の使えるパーツは売ったりしているのです。ゴミはゴミでも使えるものもあると気づくことができ、自分がゴミ拾いをするによって、SDGsの目標のひとつでもある「住み続けられるまちづくり」に貢献できるのではないかと思います。



僕は今回の見学に刺激を受けて、「住み続けられるまちづくり」に挑戦したいと思い、町に落ちているゴミ拾いをし、地元に戻ってもゴミ拾いを続けていました。そして、もともと参加していた学校のボランティア活動にも毎回欠かさず参加しようと思いました。このような活動への意欲を引き出してくれた鈴木商会さんと勝山さんに感謝しています。

INFORMATION



編集後記

今の子どもたちって手紙とか書くのかなあ。私の中学時代は手紙交換が流行っていた。その子に合うレターセットを選ぶ楽しみ。返事がくるまでのワクワクした気持ち。手書きの文字はなんだかうれしい。LINEは既読がつき、簡単に言葉を返せてしまう。便利な時代だけど、なんだか味気ないな〜。(高崎麻美)

入学前はほとんどの生徒が不安を抱えてやってきます。不登校だったり、人間関係に悩んできた子たち。理由は本当にさまざまです。ですが、本校で人と関わり、みんなと同じ時間を過ごす中で少しずつ自信を取り戻し前向きに過ごしています。勇気を出して一歩を踏み出し本校に来た生徒たちが、ここでの生活をありのままに語っています。

あなたも
北星余市の
仲間です!



元ひきこもりは
世界を見ている!



北星学園余市高等学校

046-0003
北海道余市郡余市町黒川町19丁目2-1
Tel. 0135-23-2165 (職員室)
Fax. 0135-22-6097 (職員室)

www.hokusei-y-h.ed.jp



日々の学校生活の様子を
更新しています
ブログ
北星余市は、いま!



動画で観る北星余市
北星余市
YouTubeチャンネル



卒業生がいかに
生きているか
ウェブマガジン
STAR RECORD

